

testo 340/testo 350 燃焼排ガス分析計で ボイラーシステムを効率化



排ガス浄化システムや船舶ボイラーシステムで水管ボイラーや丸ボイラーに携わる現代のボイラー設置者は、15年前と比べてエネルギー消費量ははるかに少なく、環境汚染も少ない技術を利用できます。工業用バーナーの燃焼装置の寿命は30～40年のため、平均2、3回更新する必要があります。法令の排ガス制限値は、特にNO_xに関して、年々厳しさを増しています。

そのため、コミッショニング（性能検証）、メンテナンス、および高精度排ガス測定（計量証明など）のために、ボイラーとバーナーの排ガス値を測定します。これを基に、システムのコスト効率とバーナーの設定が明確に評価できます。また、システムが法律で規定された排ガスの上限値と燃焼ガス損失に適合していることが確認されます。



課題

バーナーの稼働の分析時には多くの場合、燃料供給、霧化、制御動作、および排ガス値に注目します。ただし、経験豊富な技術者は、調整範囲を広げ、燃焼を安定させ、最良の排ガス値を得るためにもっとも重要なのは、最適な空気供給であることを知っています。つまり、ブロワー、エアダクト、および制御が互いに連携していることの確認が不可欠です。

ソリューション

testo 340 燃焼排ガス分析計を使用すると、関連するすべてのガスを分析し、燃焼プロセスを調整して、燃料と燃焼用空気の量を最適な比率にすることができます。testo 350 と同様、testo 340 は自主管理としてのチェックが可能です。それを基に、バーナーの燃焼効率レベルを最適化できます。コメント機能と testo easyEmission ソフトウェアの組み合わせによって、ユーザ定義の書式による文書とレポートを作成し、システムへの変更をトレーサブルにすることができます。そのため、testo 340 は最初のコミッショニング時、および運転中に繰り返し行うガス分析に最適です。ガス冷却機能が内蔵された testo 350 は、高精度の排ガス測定にお勧めします。

メリット

testo 340 でサービスを効率化

- 頑丈で、こまめなメンテナンスが不要な技術を採用しているため、いつでも使用可能
- 特殊ホース (PTFE) のセルフクリーニング効果：濃縮された汚染粒子の付着なし
- 設定が簡単：延長ホース (最大 7.8m) によって、測定場所が遠く離れていてもボイラーのディスプレイを見ながら作業が可能
- センサは現場で簡単に取り外しと交換が可能のため、ダウンタイムを短縮できる
- 測定範囲の拡張 (5 倍)：高濃度 (CO は最大 50,000ppm) でも測定が可能

testo 350 で排ガスを高い精度で測定

- ガスの前処理機能を内蔵し、人の監視のない状態での長期間測定でも正確な (乾きベース) 結果
- Bluetooth 接続によって、コントロールユニットと測定場所が遠く離れていても (障害物のない場合に最大 100m) 容易な作業を実現
- JIS に準拠した環境測定モデル (testo 350J) は計量証明で使用可能
- 測定範囲の拡張 (2、5、10、20、40 倍)：高濃度 (40 倍時の CO は最大 400,000ppm) でも測定が可能
- バイオガスでの使用、および SO₂ と H₂S の測定に最適



testo 340 燃焼排ガス分析計



testo 350 燃焼排ガス分析システム

* 本カタログの内容は、予告なく変更される場合があります。本カタログに掲載されている内容は、2017 年 8 月現在のものです。